

## 平成30年度 学校生活相談センターの相談状況について( 3月末現在)

心の支援課

## ◆件数・回数の同期比較◆

	前年度 H29年度(～3月末)		本年度 H30年度(～3月末)	
相談件数	693件	→	768件	(75件増)
延べ回数	1021回	→	1326回	(305回増)

## 1 相談の形態

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合	
電話	平日昼間	329	42.9%	527	39.8%
	夜間・休日	355	46.2%	593	44.7%
文書 (メール・FAX・手紙)	84	10.9%	190	14.3%	
来所	0	0.0%	16	1.2%	
計	768	100.0%	1326	100.0%	

・前年度末と比較すると、昼間・夜間ともに増加傾向にあり、相談件数は、10.8%、延べ回数は、29.9%増加している。

・来所相談は、基本的に電話での予約確認から始まるケースがほとんどであるため、今年度は延べ回数のみ16件となっている。

## 2 連携した案件

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
相談者から連携希望があった案件	54	7.0%	106	8.0%
傾聴を主とした案件	714	93.0%	1220	92.0%
計	768	100.0%	1326	100.0%

## 主な連携先

小中学校	…	43件	私学振興課	…	1件
県立高校	…	26件	こども・家庭課	…	0件
県教育委員会他課	…	10件	児童相談所	…	0件
教育事務所	…	15件	子ども支援センター	…	0件
市町村教育委員会	…	7件			

## 3 月別相談件数

区分	件数	割合	延べ回数	割合
4月	52	6.8%	75	5.7%
5月	79	10.3%	109	8.2%
6月	73	9.5%	123	9.3%
7月	79	10.3%	141	10.6%
8月	65	8.5%	116	8.8%
9月	63	8.2%	113	8.5%
10月	81	10.5%	136	10.3%
11月	63	8.2%	112	8.4%
12月	52	6.8%	93	7.0%
1月	40	5.2%	91	6.9%
2月	70	9.1%	125	9.4%
3月	51	6.6%	92	6.9%
計	768	100.0%	1326	100.0%

## 4 相談者の状況

## (1) 主訴(相談者全体)

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合	
子どもに関すること	いじめ・嫌がらせ	96	12.5%	131	9.9%
	不登校・登校渋り	79	10.3%	136	10.3%
	その他	157	20.4%	270	20.3%
学校・教師に関すること	245	31.9%	428	32.3%	
家庭・私生活に関すること	86	11.2%	220	16.6%	
意見・問い合わせ	72	9.4%	85	6.4%	
その他	33	4.3%	56	4.2%	
<b>計</b>	<b>768</b>	<b>100.0%</b>	<b>1326</b>	<b>100.0%</b>	

## (2) 主訴(子どものみ)

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合	
子どもに関すること	いじめ・嫌がらせ	30	11.2%	40	9.0%
	不登校・登校渋り	7	2.6%	14	3.1%
	その他	105	39.0%	195	43.7%
学校・教師に関すること	52	19.3%	91	20.4%	
家庭・私生活に関すること	37	13.8%	53	11.9%	
意見・問い合わせ	17	6.3%	20	4.5%	
その他	21	7.8%	33	7.4%	
<b>計</b>	<b>269</b>	<b>100.0%</b>	<b>446</b>	<b>100.0%</b>	

## (3) 相談者の内訳

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
<b>子ども</b>	<b>269</b>	<b>35.0%</b>	<b>446</b>	<b>33.6%</b>
本人	269	35.0%	446	33.6%
本人以外の子ども	0	0.0%	0	0.0%
<b>大人</b>	<b>487</b>	<b>63.4%</b>	<b>868</b>	<b>65.5%</b>
父	68	8.9%	96	7.3%
母	357	46.5%	686	51.7%
祖父	6	0.8%	7	0.5%
祖母	17	2.2%	25	1.9%
その他の大人	39	5.1%	54	4.1%
不明	12	1.6%	12	0.9%
<b>計</b>	<b>768</b>	<b>100.0%</b>	<b>1326</b>	<b>100.0%</b>

・関係機関に連携した案件は、学校・教師の対応についての案件が目立つ。  
 ・前年度同期と比べ、大人からの相談が増加傾向にあり、特に延べ回数の割合は、6.8%増加していることから、相談が継続する傾向も高いことが窺える。

## 5 相談対象者の状況

## (1) 相談対象者の性別

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
男	323	42.0%	600	45.3%
女	376	49.0%	637	48.0%
不明	69	9.0%	89	6.7%
<b>計</b>	<b>768</b>	<b>100.0%</b>	<b>1326</b>	<b>100.0%</b>

## (2) 相談対象者の学校区分

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
就学前	11	1.4%	11	0.8%
小学生(低学年)	64	8.3%	106	8.0%
小学生(高学年)	113	14.7%	216	16.3%
中学生	219	28.5%	384	29.0%
高校生	276	36.0%	507	38.2%
その他	33	4.3%	40	3.0%
不明	52	6.8%	62	4.7%
<b>計</b>	<b>768</b>	<b>100.0%</b>	<b>1326</b>	<b>100.0%</b>

## (3) 学校の所在地域

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
北信	189	24.6%	476	35.9%
東信	64	8.3%	94	7.1%
中信	91	11.9%	162	12.2%
南信	75	9.8%	177	13.3%
その他	4	0.5%	4	0.3%
不明	345	44.9%	413	31.2%
<b>計</b>	<b>768</b>	<b>100.0%</b>	<b>1326</b>	<b>100.0%</b>

・前年度末と比べ、相談対象者の男女比はほぼ変わらない。また、相談対象者が男子の場合の方が、やや相談が継続しやすい傾向があることも同じである。

・本年度は、相談対象者に占める高校生の割合が増加傾向にある(相談者数+7.2%,延べ回数+6.1%)。

## 年度末のまとめ

・相談件数、延べ回数ともに、前年度末を上回った。特に延べ回数はセンター受付(昼間)で117回、夜間・休日受付で164回増加し、延べ回数が3桁を記録する月が8か月(前年度+6か月)あった。相談者の内訳を見ると、相談件数の各区分の割合はほぼ変わらないものの、大人からの相談のみ延べ回数の割合が7.3%増えていることから、延べ回数の増加に影響していることが分かる。

・主訴を見ると、5月は不登校に関わる相談が目立ち、7月は児童・生徒からの対人関係・友人関係の相談、熱中症に関わる学校対応についての相談、夏休み明けは不登校に関わる高校生の保護者からの相談、12月は心身の疾患・障がいについての相談、2月はいじめ・嫌がらせや学校・教師の対応についての父親からの相談が目立った。

・相談者全体の主訴を見ると、子育てや家族関係の相談等が含まれる家庭・私生活に関する相談件数が延べ回数で142件増加しており、相談内容の多様化が進んでいる。